



社会福祉法人 人を支える 生活を支える

佐賀整肢学園

SAGA SEISHI GAKUEN Since 1960

- 発行：令和3年6月
- 発行元：社会福祉法人 佐賀整肢学園
- 発行者：理事長 中尾清一郎
- 編集：法人広報誌編集委員

学園タイムス

2021-6 Vol.30

社会福祉法人 佐賀整肢学園

Sagaseishigakuen times

「春の夕暮れ」

令和元年の12月我が家へやってきた愛犬リツ君との散歩が日課になりました。今まで気付かなかった季節の移ろいがとても新鮮です。金立コスモス園のすぐそばに住んでいるのに、こんな素敵な風景に出会えたのは初めてでビックリです！思わずスマホでパチリ！！このコロナ禍での散歩活にますます磨きがかかりそうです。



- 巻頭言…2
- REPORT…3
- 令和3年度新規採用職員紹介…4～6
- タイムス特集…7
- 事業所 TOPICS…8～9
- 常務随想 リレーコラム…10
- ボランティア・施設見学・実習状況 みどころ…10

法人事務局 〒849-0906 佐賀県佐賀市金立町大字金立2215-27 TEL0952-97-6611 FAX0952-97-6611	こども発達医療センター 〒849-0906 佐賀県佐賀市金立町大字金立2215-27 TEL0952-98-2211 FAX0952-98-3391	オークス 〒849-0906 佐賀県佐賀市金立町大字金立168-1 TEL0952-98-3770 FAX0952-98-3772	かんざき清流苑 〒842-0107 佐賀県神埼市神埼町鶴2927番地2 TEL0952-52-8890 FAX0952-52-9977
在宅サポートセンターかんざき清流苑 〒842-0107 佐賀県神埼市神埼町鶴2927番地2 TEL0952-52-8915 FAX0952-52-9977	からつ医療福祉センター 〒847-0001 佐賀県唐津市双水2806 TEL0955-70-3580 FAX0955-78-0683	からつ医療福祉センター-在宅事業部 〒847-0001 佐賀県唐津市双水2806 TEL0955-70-3580 FAX0955-78-0683	からつ医療福祉センター-好学舎 〒847-0001 佐賀県唐津市双水2787-1 TEL0955-78-1123 FAX0955-78-3001
糸島子どもとおとなのクリニック 〒819-1301 福岡県糸島市志摩井田原63-1 TEL092-327-0073 FAX092-327-0361	かんざき日の隈寮 〒842-0107 佐賀県神埼市神埼町鶴2950-2 TEL0952-52-2229 FAX0952-52-7229	佐賀向陽園 〒849-0906 佐賀県佐賀市金立町大字金立801-1 TEL0952-98-1074 FAX0952-98-3145	居宅介護支援センターわいわい 〒849-0906 佐賀県佐賀市金立町大字金立799番地 TEL0952-71-8250 FAX0952-71-8252



「地域におけるセーフティネット」

救護施設
佐賀整肢学園・かんざき日の隈寮
施設長

大島 毅

「日の隈寮」について、名前は聞いたことはあるが、どういう施設なのか知らないという方も多いのではないのでしょうか。恥ずかしながら、十数年前まで私もその1人でした。佐賀整肢学園・かんざき日の隈寮は、生活保護法に基づく救護施設（定員70名）です。障がいの種別を問わず、地域で日常生活を営むことが困難な方が入所されています。関係機関と連携しながら、利用者それぞれに応じたサービスを提供しています。また、他種別施設や地域生活への移行を推進しています。佐賀県内には2か所、全国には180か所ほどの救護施設があり、最後のセーフティネットとして命と生活を支える存在となっています。

日の隈寮は、佐賀県立・県営の救護施設として、昭和38年に神埼市城原地区に開設されました。ちょうど日の隈山の北側に当たります。その後、県立福祉施設の民間移譲第1号として、平成20年に当法人へ経営移譲されることが決まりました。県からの引継を受けながら、新規採用職員の研修を実施し、移譲に備えました。

平成20年4月1日の深夜0時に職員が入れ替わり、新しい運営がスタートしました。築50年程の建物は老朽化が進み、居室は手狭な畳敷きの6人部屋でしたが、和やかな雰囲気がありました。敷地内のソメイヨシノが、毎年見事な花を咲かせ、地域の方との観桜会は大盛況でした。20数名の職員は、移譲前に十分な申し送りを受けていましたが、救護施設で働いた経験はほとんどありません。利用者の日常生活の支援と合わせて、求職活動の引率、アパートや他種別施設への移行手続き、身寄りがいない利用者の葬儀等、救護施設特有の支援にも初めて取り組みました。城原地区で4年間を過ごし、平成24年6月に鶴西地区（かんざき清流苑の隣）へ移転しました。居室は4人部屋となり、ゆとりある生活空間となりました。納涼祭等を通じて、地域住民との交流も盛んになり、利用者の皆さんは地域の一員として穏やかな生活を送られています。そして、新しくなった設備と利便性を活かし、地域生活移行に向けた訓練（居宅生活訓練事業）を開始し、現在に至っています。

救護施設は、施設によって利用者の特性が異なり、支援内容も多岐に渡ります。日の隈寮の特徴的な取り組みの一

つが就労支援活動です。利用者が法人内施設や近隣事業所、地域に出向き、簡単な作業（清掃、農作業、洗濯作業、接客、フロアクリーニング、環境整備等）を行います。年間延べ3,000名ほどの方が参加されるようになりました。作業内容を徐々にステップアップし、一般就労に繋げることを目標としており、昨年は5名の方が一般事業所で就労されました。毎年数名の利用者が就労と居宅生活訓練事業を両立され、地域生活に移行されています。

また、施設機能を活かした公益的な取り組みも行っています。3階の地域交流ホールは、地域住民の福祉避難場所として神崎市と協定を締結し、備品の整備や受入訓練を実施しています。昨今の集中豪雨により、毎年のように避難者を受け入れるようになりました。昨年からは、感染症対策という悩ましい問題が出てきましたが、地域住民が安心して避難できる環境を整備したいと思っています。

その他、施設の空き部屋等を活用し、生活困窮者等の緊急一時受入事業を実施しています。福祉事務所より要請があった際に、一定期間、無料又は低額で生活の場を提供します。昨年は相談支援と合わせて、学習支援も行いました。福祉事務所からの相談内容は、既存の福祉制度では対応できない急を要するものがほとんどで、切ない気持ちになることもあります。利用される方の将来に繋がればと願い、日の隈寮としてできることを実施しています。コロナ禍だからこそ、必要な事業と位置づけ、可能な限り継続したいと考えています。

救護施設の運営を開始し、13年が経ちました。おかげさまで、大きな問題もなく経過しております。また、これまで採用した職員のほとんどが、福祉人材として、それぞれの役割を担っています。救護施設は最後のセーフティネットとして、その機能と専門性を活かした支援がますます期待されるようになりました。制度の狭間で福祉的支援を要する方に、必要なサービスを提供するのも救護施設の使命であると改めて感じております。これからも地域におけるセーフティネットとして矜持を持ち、地域に根ざした施設運営を実践していきます。皆様には、引き続き、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

制度 利用

男性職員の育休取得

私は、令和3年3月31日に第3子になる女児を授かりました。

上の子を授かった際には、仕事での帰宅時間も遅く、家事や育児に正直、積極的に関わる事もなく、ほとんど妻・姑へ任せていたため、衝突する事も多々ありました。当時の苦い思い出でもあります。しかし、家族の時間・ライフワークバランスの見直しを行い、御縁があり平成29年にわいわいに転職をしました。

今回、妻の妊娠・出産をきっかけに育児休業を申請し、上司・わいわいの全職員のご協力を得て2週間の育児休業を取得し、妻・子供達との充実した時間を過ごす事が出来ました。

古川施設長が常々話されている「職員が幸せになる職場作り」「職員が幸せでないと、利用者も幸せにならない。」

これは結果的に職員のモチベーションを向上させ、対人サービス・心の余裕を待たせる事で良いスパイラルが形成されると実感しました。

現在の日本は、男性の育児休業取得率わずか7.48%、しかも1週間内の短期間の取得が7割というのが現状です。しかし男性育休が2021年を節目に変わろうとしています。妻の妊娠・出産を機に男性が家庭でできることは限られているかもしれませんが、家族に寄り添う事で、不安・心配を払拭する事ができると思います。これを機に当法人の男性育児休業取得が続いてくれたら幸いです。



(居宅介護支援センター わいわい 生活相談員 宮本 稔也)



新任 紹介

こども発達医療センター、糸島おとなとこどものクリニックに2名の医師を新たに迎えました。

令和3年4月より赴任

●糸島おとなとこどものクリニック 施設長(院長) 整形外科



ふじい としお
藤井 敏男医師

- 所属学会等
日本整形外科学会 日本小児整形外科学会
日本創外固定・脚延長学会 小児股関節研究会
日本二分脊椎研究会
Asia Pacific Orthopaedic Association, APOA
アジア太平洋整形外科学会
Asia Pacific Pediatric Orthopaedic Society, APPOS
アジア太平洋小児整形外科学会
European Pediatric Orthopaedic Society, EPOS
欧州小児整形外科学会
International Pediatric Orthopaedic Think Tank, IPOTT
国際小児整形外科学会シンクタンク
International Federation of Pediatric Orthopaedic Society, IFPOS
国際小児整形外科学会連盟

●著書

- 「小児整形外科診療ハンドブック」藤井敏男・村上寛久 編. 南江堂 東京 1990
- 「小児運動器疾患、最新整形外科学大系24」藤井敏男、中村耕三 編. 中山書店 東京 2008
- 「小児整形外科の実際」藤井敏男 編. 南山堂 東京 2008
- 「小児整形外科の要点と盲点」藤井敏男 編. 文光堂 東京 2009
- 「小児運動器疾患のプライマリケア」藤井敏男・高村和幸・柳田晴久 編. 南江堂 東京 2015

令和2年8月より赴任

●こども発達医療センター 小児科



うだ けいこ
宇田 恵子医師

佐賀大学医学部卒業
佐賀県医療センター好生館より赴任

- 所属学会等
日本小児科学会
小児神経学会
日本てんかん学会



新採職員紹介

今春は40名の新規採用職員を新たに迎えることができましたが、全員参加の辞令交付式はコロナ対策上開催できず、各施設の代表1名に、令和3年4月1日に中尾清一郎理事長より辞令が交付されました。また、新規採用職員を代表して、こども発達医療センター配属の留盛愛子さんが誓いの言葉を述べました。新たな仲間を加え、法人全体で、職員は約1,000名になりました。(4月1日現在)

誓いの言葉

私たちは、時代の要請を的確に把握し、総合力を高めて医療・福祉サービスの提供に、先進的かつ積極的に取り組みます。
 私たちは、利用者とその家族の思いをわが思いとして、利用者の明るく、充実した暮らしの実現に努めます。
 私たちは、医療・福祉の専門家としての誇りと熱意を持って、常に自己研鑽に努め、利用者の処遇向上を図ります。
 私たちは、地域の医療福祉の拠点施設として、その機能と役割を十分に発揮できるよう、地域社会との連携と交流促進に努めます。



こども発達医療センター

松尾 優海

理学療法士
理学療法科



こども発達医療センター

川上 温子

言語聴覚士
言語療法科



こども発達医療センター

日野真智子

言語聴覚士
言語療法科



こども発達医療センター

留盛 愛子

生活支援員
西棟療育課



こども発達医療センター

大坪 希衣

保育士
第1療育課



こども発達医療センター

松ヶ野愛乃

保育士
第2療育課



こども発達医療センター

岩松美由紀

看護師
第1療育課



こども発達医療センター

岡 愛里沙

看護師
第3病棟



こども発達医療センター

小川 亮

看護師
第3療育課



こども発達医療センター

久保田ゆきの

看護師
第3療育課



こども発達医療センター

城野さゆり

看護師
第3療育課



こども発達医療センター

田中 里奈

看護師
第2療育課



こども発達医療センター

知北 亜弓

看護師
第1療育課



こども発達医療センター

永瀬 美嘉

看護師
西棟療育課



オークス

小谷奈菜美

生活支援員
入所サービス課



オークス

船津 咲奈

生活支援員
入所サービス課



オークス

村岡 遥

生活支援員
入所サービス課



かんざき清流苑

田中 由美

准看護師
入所サービス課



在宅サポートセンター
かんざき清流苑

今村久美子

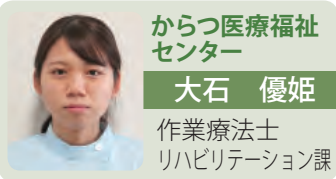
介護支援専門員
在宅サービス課



在宅サポートセンター
かんざき清流苑

江頭都津美

介護士
在宅サービス課



からつ医療福祉
センター

大石 優姫

作業療法士
リハビリテーション課



からつ医療福祉
センター

永留 宥佳

作業療法士
リハビリテーション課



からつ医療福祉
センター

野入 大佑

生活支援員
看護生活課



からつ医療福祉
センター

青木 遥

児童指導員
看護生活課



からつ医療福祉
センター

梶原野恵流

管理栄養士
総務課



からつ医療福祉
センター

園田 瑞妃

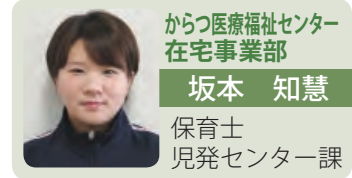
アシスタント
入所サービス課



からつ医療福祉センター
在宅事業部

力武 奈央

児童指導員
児発事業課



からつ医療福祉センター
在宅事業部

坂本 知慧

保育士
児発センター課



からつ医療福祉センター
在宅事業部

徳田紀美子

保育士
児発センター課



からつ医療福祉センター
在宅事業部

松尾 看那

保育士
児発センター課



からつ医療福祉センター
在宅事業部

井本はずき

一般事務員
児発センター課



からつ医療福祉センター
好学会

山口 千尋

児童指導員
女子棟課



からつ医療福祉センター
好学会

佐々木風美香

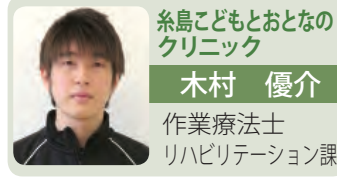
児童指導員
女子棟課



糸島子どもとおとなの
クリニック

野田 結香

作業療法士
リハビリテーション課



糸島子どもとおとなの
クリニック

木村 優介

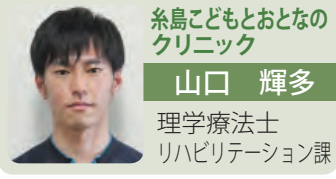
作業療法士
リハビリテーション課



糸島子どもとおとなの
クリニック

松永 美幸

理学療法士
リハビリテーション課



糸島子どもとおとなの
クリニック

山口 輝多

理学療法士
リハビリテーション課



糸島子どもとおとなの
クリニック

寺岡 沙耶

言語聴覚士
リハビリテーション課



糸島子どもとおとなの
クリニック

雪丸 梨恵

言語聴覚士
リハビリテーション課



居宅介護支援センター
わいわい

伊東 勇貴

介護職員
在宅サービス課



上段左から 森法人事務局長 原副理事長 中尾理事長 寺崎常務理事 窪田常務理事
下段 新規採用職員各施設代表者 (辞令交付式会場 多目的研修施設)

新採職員からの ひとこと

オークス

生活支援員 船津 咲奈

今年度から佐賀整肢学園・オークスの職員として働くことになりました。

利用者の方、一人一人支援方法が異なるので戸惑うことも多くあります。技術・知識ともにまだまだ未熟ですが、先輩方にアドバイス、ご指導をいただき、一日一日を大切に過ごして、スキルアップを図っていきたいと思います。利用者の方やそのご家族の方に寄り添った支援を行えるよう、また利用者の方に信頼していただける介護福祉士を目指して頑張ります。

今後とも宜しくお願い致します。

からつ医療福祉センター

作業療法士 大石 優姫

今年度より、からつ医療福祉センターで作業療法士として働かせて頂くことになりました。利用者の皆様との関わりや日々の業務の中で、自身の力不足を痛感する毎日ですが、先輩方の丁寧なご指導や利用者の皆様に支えられながら、業務に励むことができています。まずは、コミュニケーションを大切にしながら、利用者の皆様のことを知り、信頼関係を築くことを目標に関わらせて頂いています。いまの感謝の気持ちを忘れず、一日でも早く学ばせて頂いていることを利用者の皆様に還元できるよう努力したいと思います。今後ともご指導よろしくお願い致します。

好学舎

児童指導員 山口 千尋

今年度より、からつ医療福祉センター好学舎で児童指導員として働かせていただいております、山口千尋です。早いもので働きだして数か月が経ち、実際に子ども達と接していく中で、戸惑うことが多くありますが、周りの先輩方に支えられながら、日々多くのことを学ばせていただいております。仕事にやりがいも感じており、仕事に行くことも生活の習慣の一部となりました。

今後とも自己研鑽に努め、好学舎職員の一員としての自覚を持ち、子ども達にとってより良い指導員となれるように頑張っていきますので、何卒よろしくお願い致します。

こども発達医療センター

生活支援員 留盛 愛子

今年度より、こども発達医療センターで生活支援員として働かせていただくことになりました。正規職員として採用していただいて約一カ月、ただ淡々と業務をこなすのではなく、自分に置き換えたときどのように感じるか、という先輩からの一言が今の私にとってはとても衝撃的でした。早く仕事を覚え、周りの役に立ちたいとばかり考えていたので、利用者の皆さんが第一ということに改めて気づかされました。

これからこの言葉を肝に銘じ、利用者の皆さんとの関りに感謝の気持ちを持ち、多くの方に信頼される生活支援員になっていけるよう努力してまいります。今後ともご指導よろしくお願い致します。

在宅サポートセンターかんざき清流苑

介護支援専門員 今村 久美子

居宅支援事業所かんざき清流苑で勤務させていただいてまもなく4年となります。パートから常勤、正規職員と段階ごとに責任の重さが異なり、また新たな気持ちで前進していく所存です。

様々なケースを担当して、時に思い悩むこともあります。職場の明るい雰囲気と知識豊富な先輩方に支えられ、毎日やりがいを感じることができています。

利用者の方やご家族の方の思いに寄り添いながら、専門職としてスキルアップを図り、知識と人間性を向上していけるように努めていきたいと思っています。今後ともよろしくお願い致します。

糸島こどもとおとなのクリニック

作業療法士 野田 結香

今年度から作業療法士として糸島こどもとおとなのクリニックにて働いています。コロナで実習中止が相次ぎ、学びや経験が十分とは言えませんが、諸先輩方に支えられながら業務に取り組んでいます。

至らない点が多々ありますが、利用者の方からの「ありがとう」の声を頂けることに日々喜びを感じています。これからもどのように利用者の皆さまの生活をサポートしていけるかを考え、一つひとつの課題に真摯に向き合っていきたいと思っています。信頼関係を築きながら、より良いリハビリを提供できるように努めていきますので、どうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

居宅介護支援センターわいわい

介護職員 伊東 勇貴

今年度より居宅支援センターわいわいに正規職員として採用となり、新たな生活がスタートしました。今まではグループホームで働いていたためデイサービスでの1日はあっという間に過ぎていき、毎日が忙しく感じています。また、毎日が反省と勉強の繰り返しで自分自身の成長も実感していますが、時には立ち止まって悩み、先輩方に助言を求めいつも助けられています。来年は介護支援専門員の資格取得を目指しており、自分の目標や夢に向けて力強く進んでいけるよう、日々努力していきます。

タイムス特集

令和2年度の「学園タイムス」は、Vol.26～29を発売しました。職員から応募があった表紙写真を振り返ります。

平成27年度から始めた表紙写真の公募も、令和2年度で6年目を迎えました。「佐賀・糸島で撮影した写真」を条件として、自由なテーマでの募集したところ、四季折々の表情を楽しむことが出来る、魅力的な写真をたくさん応募いただきました。応募していただいた皆さんありがとう

ございました。写真が採用された職員には後日記念品を贈呈致しますので楽しみにお待ちください。

今年度も引き続き表紙写真を職員より募集します。採用された方には記念品を贈呈させていただきます。詳細は下記の募集要項をご確認下さい。



「桜並木」
撮影：片瀬 瑞紀さん
(居宅介護支援センターわいわい)



「サンセット」
撮影：桃崎しのぶさん
(からつ医療福祉センター)



「彼岸花と秋の訪れ」
撮影：佐藤 良恵さん
(からつ医療福祉センター)



「朝日と雪」
撮影：竹下 奈緒さん
(オークス)

令和2年度 その他の応募写真



ご感想やお問い合わせや写真の応募、また特集内容のご要望や学園 FOCUS の自薦他薦は、各事業所の編集委員までどうぞ。

編集委員一同

令和3年度 表紙募集について

今年度も表紙写真を大募集します！今年度もテーマはありません。たくさんの方に気軽に応募していただけたら、という思いから、このようなかたちをとっています。

条件は「佐賀・糸島でとった写真であること」。風景はもちろん、食べ物や飲み物、催事など、佐賀や糸島の魅力が伝わってくる写真を募集します。締切もありませんので、いつでも、何でもお気軽にご応募ください。もちろんスマートフォンで撮った写真もOKです。たくさんのご応募、お待ちしております。



上記 QR コードから
メールで簡単に応募できます！

- 法人事務局
- こども発達医療センター
- オークス
- かなぎ清流苑
- からつ医療福祉センター
- かなぎ日の隈寮
- 佐賀向陽園・わいわい

- 姉川 政嗣
- 井上 葉
- 横尾 由希
- 竹下亜由美
- 田中 邦典
- 木戸 美恵
- 片瀬 瑞紀
- 山口 未佳
- 井上 早帆
- 宮本 稔也

共用型認知症対応型通所介護施設開所

かんざき清流苑

令和3年1月4日よりグループホーム内の共用スペースを活用した「共用型認知症デイサービス」が始まりました。大人数の環境が苦手な認知症の方にグループホームと同じく少人数の家庭的な環境の中、お一人お一人に合わせた柔軟な支援を提供するサービスです。定員3名で、清流苑有料老人ホームから2名、在宅から1名ご利用されています。その開所祝いと3名の利用者の方の歓迎会を開きました。グループホームでは利用者の方に関わる際、ご家族様から利用者の方の好きなことや昔されていたことなどについて、お話を聞くことをとても大切にしています。歓迎会の中では、ご利用前にご家族様にお話しいただいたことも含めた利用者の方のご紹介、ご家族様の写真、担当ケアマネージャーからのひとことなど、3名の利用者の方お一人お一人についてスクリーンにて上映しました。利用開始当初は緊張されている様子もありましたが、ご家族様からお聞きした得意な事や好きな事をしていただくことと徐々に活気あるお姿を拝見することができるようになり、グループホーム利用者の方との会話も増えてこられました。グループホームでは忘年会で一年の思い出と利用者の方の素敵なお姿をスクリーンで上映する事が恒例となっています。今年の忘年会ではデイサービス利用者の方の素敵なお姿もたくさん上映できるように、お一人お一人が主役になれる場所がたくさん提供できるよう職員間で連携をとり、楽しく穏やかな毎日を過ごしていただけたらと思います。



(在宅サービス課 介護福祉士 御厨 彩子)

お楽しみ会

3月

こども発達医療センター



3月23日にお楽しみ会で、「全集中!!オリンピック」を行いました。まず、職員と代表して3名の利用者の方がリレー式でトーチを持ちホール内を1周し、聖火に火をつける所から始まりました。その後、3チームに分かれて短距離走～有名選手運び～を行いました。職員と一緒に歩いてバトンを渡したり、自走にてバトンを渡したりと、とても盛り上がる競技で、「頑張れー!」と大きな声援が飛び交っていました。

次に、全員参加型のアトラクションで射的を行いました。的に当たり倒れると嬉しそうな表情をされたり、はずれると悔しそうな表情をされたりと、利用者の皆さんの色々な表情を見ることができました。最後に職員による競技を行い、利用者の皆さんも職員も楽しまれ、たくさんの笑顔を見ることができました。おやつのはアイスクリームは、チョコレートソースやフルーツソース、チョコスプレーなどで自分好みのトッピングをし、皆さん美味しく食べていました。

これからもたくさんの笑顔と思い出ができるよう支援していきたいと思っています。
(第2療育課 生活支援員 平川 恵三子)

入所児童の旅立ち

3月

好学舎

からつ医療福祉センター好学舎が開設してから3年が経過し、令和2年度は多くの子どもたちが退所しました。前籍校に戻られたり、無事に高校受験に合格し進学されたりと、好学舎からそれぞれ新たな場所に旅立ちます。

退所にあたっては退所式を執り行い、退所児童の頑張りを讃え施設長や生活担当職員から励ましの言葉がかけられます。また、退所する子どもたちには、生活担当職員が中心になって製作した「思い出アルバム」が贈られます。好学舎に入所した時の写真から始まり、いろいろな行事や日々のスナップ、そして退所時の写真や職員全員からの寄せ書きなど、好学舎での過ごした日々の思い出がアルバムいっぱい詰まっています。心も体も成長した一人ひとりを想い、心を込めて製作したアルバムは、保護者の方に子どもの成長を知っていただくことのできる大切なものだと思います。

好学舎で何を頑張りと、今後どのような自分になりたいのかを目標に入所された子どもたちは、退所する際は達成感で満ち溢れていることでしょう。これから不安もあると思いますが、好学舎で身につけた社会スキルを十分に発揮し、新しい場所で頑張ってもらいたいと思います。



(女子棟課 副課長 富永 貴子)

事業所 TOPICS

(2月～4月)

お花見

3月 オークス



令和3年3月25日に、グループホームきらりの花見会を行いました。きらりは軽度の方向けのグループホームで身体面や食事面での自由度が高いため、毎年花見やクリスマスで外出や食事を楽しんでいました。しかし、昨年からのコロナ禍により行事も大幅に減った中で、感染予防に配慮しながらの花見会となりました。

例年ならお弁当を食べながら皆さんとの会話も弾み賑やかな会になるところですが、今回はマスクをつけて静かな乾杯から始まりました。会話を控えての食事でしたが、舞い散る桜の花びらを見ながら目で楽しんでおられました。また、茶道の経験がある職員に抹茶をたててもらい、体も心も温まりました。

オークスグラウンドに咲いた満開の桜を見ながら、すばらしい晴天にも恵まれて楽しいひと時になりました。様々な場面で感染予防のもと活動が制限されていますが、季節は変わらず巡っている事を実感したところです。

(在宅サービス課 主任 佐藤 信仁)

テイクアウト昼食会 江里口前施設長お別れ食事会 3月

かんざき日の隈寮

令和2年4月に新型コロナウイルスによる非常事態宣言が発令され、日の隈寮でも外出行事を中止せざるを得ない状況が続きました。そうしたなか、利用者の方が毎月の買物支援で楽しみにされていた外食の雰囲気や少しでも感じていただこうと、地域の飲食店からテイクアウトする日を設定しました。とても好評で、毎月の行事になっています。

今年3月、江里口前施設長の退任セレモニーを、このテイクアウト昼食会と合わせて行いました。地元のお寿司屋さん、仕出し屋さんのお弁当から好みのものを選んでいただき提供しています。当日、利用者の方に前施設長の退任をお知らせすると驚きと別れを惜しむ声があがりました。昼食会は感染症対策の為、ソーシャルディスタンスをとり、静かな食事会となりましたが、長く寮で生活されている方の中には、これまでの事を思い出されたのか涙を流す方もおられ、その他の方も、それぞれに思いを馳せておられるようでした。施設ではなかなか提供できないローストビーフやお寿司の入った華やかなお弁当に利用者の方は大変満足されており、「美味しかったよ、ありがとね。」と前施設長に声をかけられていました。



(入所サービス課 生活支援員 井上 早帆)

園内カフェ

3月

佐賀向陽園・わいわい



園内の桜が満開になった3月。例年であれば春祭りを実施したり、近隣の公園に桜を鑑賞しに行きますが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、園内の桜の木の下でカフェを開催しました。利用者の方からは「桜の綺麗かね」「ここでお茶できて、気分転換になったよ」と笑顔が見られ、リフレッシュできたようです。新型コロナウイルス感染症で世界中が暗いニュースが多い中、その利用者の方の姿を見て、職員が前向きに明るく頑張ろうという気持ち

ちにさせていただきました。新型コロナウイルス感染症が収束したら、利用者の方皆さん、職員全員で集まってお花見などで春を満喫したいものです。

(居宅介護支援センターわいわい 介護職員 片渕 瑞紀)

常務随想

「大風呂敷でも構わない」

我が国の新型コロナ感染症対策の取り組みを見るにつけ、大風呂敷と言われながら、明治から昭和にかけて、政治家、官僚、医師として多大な功績を残した後藤新平の業績を振り返ってみたくなる。

およそ125年前、後藤は日清戦争の帰還兵に対する検疫事業で手腕を発揮して、国内外で日本の評価を高めた。後藤は、安政4年6月4日(1857年7月24日)岩手県奥州市水沢区に生まれ、須賀川医学校を卒業後、21歳で医師となり愛知県で勤務を始めています。

明治16(1883)年から内務省衛生局に転じて、官僚として病院・衛生等の行政に携わり、明治23(1890)年からドイツに留学して博士号を取得し、帰国後、明治25(1892)年に内務省衛生局長に就任します。

明治28(1895)年、後藤は日清戦争の帰還兵への検疫事業を担う陸軍検疫部事務官長に就任します。当時、中国ではコレラを始めとした感染症が流行しており、帰還兵約23万人が日本へ戻れば、国内の感染症流行は必至でした。後藤はまず、広島市宇品港似島に、突貫工事で400棟以上の検疫所を建て、3か月で、687隻もの艦船と23万2346人もの将兵の検疫を実施。「健康」と診断された兵は消毒風呂へ入浴させ、「症状」がある兵は隔離させました。荷物は最新の大型ボイラーによる蒸気消毒を実施するなど、徹底的な検疫事業を行いました。死の危険が伴う最前線で、後藤は殆ど睡眠もとらず、陣頭指揮を執り続けました。その結果、369人ものコレラ患者を発見し、彼らが国内に病原菌を持ち込むのを未然に防ぐという難事業を完遂したのです。

このことについて、当時のドイツ皇帝は、「この方面では世界一と自信を持っていたが、この似島(にのしま)の検疫所には負けた。」と評価されたそうです。当時のドイツ医学は世界最先端で、北里柴三郎を始め多くの日本の医学者はドイツに学んでいますから、最大の賛辞を得たといえましょう。

そして、この働きが陸軍検疫部長であった児玉源太郎の目に留まり、のちに児玉が台湾総督となるや後藤を民生長官に抜擢し、台湾でも後藤は医学、衛生面を始め大きな実績を残しました。

コロナ対策に手を焼く今の日本の様子を見て、台湾の人々が「今の日本に後藤はいないのか?」と言ったと聞きますが、何と答えればいいのでしょうか。

Relay Column



からつ医療福祉センター
総務課
副部長

富永 創

私が佐賀整肢学園と出会ったのは、平成12年(今から約20年前)でした。当時私は、福祉系大学を卒業し、一般企業に採用されましたが、この先の進路について迷っていたところでした。

佐賀県社会福祉協議会の人材センターに張り出される求人票を、何度も見に行き佐賀整肢学園オークスの臨時職員に応募しました。

福祉系の大学を卒業してはいましたが、福祉の仕事は全くの未経験。実習には行きましたが、児童養護施設等への実習で、現場経験は全くと言っていいほどなく、採用して頂いた直後は、とても恥ずかしかつたことをよく覚えています。

職員さんから丁寧に指導して頂いたのはもちろんですが、私の実際の「先生」は利用者の方々でした。「この時間は〇〇さんの部屋に行かんばー」「□□さんの食事介助はゆっくり！」等、色々声をかけて頂きました。今自分がここで仕事をしているのは、「先生」方のおかげです。ありがとうございます。

NEXT...オークスのあの人にバトンタッチ!!

令和3年2月～令和3年4月

協力ボランティア

【こども】 整肢学園友の会様 親和会様

【オークス】

【清流苑】

【からつ・好・糸】

【日の隈】

【向・わ】

施設見学会

【こども】

【オークス】 障害者支援施設大空の会 6名様

【清流苑】

【からつ・好・糸】 唐津特別支援学校 2名様 大里保育園 1名様

【日の隈】

【向・わ】

実習生受入

【こども】

【オークス】 西九州大学短期大学部地域生活支援学科 1名

【清流苑】

【からつ・好・糸】 西九州大学リハビリテーション学科 1名 西九州大学短期大学部地域生活支援学科 1名

【日の隈】 西九州大学社会福祉学科 5名

【向・わ】

見どころ

今回の学園タイムスの見どころは、法人内男性職員初の育休取得の特集です。各事業所とも時間外労働の削減や有給休暇の取得率の上昇など、ライフワークバランスに向けた取り組みを行うなか、喜ばしい話題が掲載されています。

今年度もこのようなニュースが届けていけるよう、編集委員一同頑張りたいと思います。また、表紙写真については、今年度も職員の皆さんから募集しますので、たくさんのご応募をお待ちしています!

